

対応認定科目	フィールドワークに基づく地域調査実習に関する科目 フィールドにおいて人文的又は自然的特徴に関する地域調査を実施し、地域を総観する能力を習得する科目			
大学・大学院名	〇〇大学大学院			
開設研究科名	〇〇研究科 地理・地域論コース			
授業科目名	〇〇実習			
単位数	半期・通年・ 集中 ・その他 (4 単位)			
授業方式	講義/実験 実習/演習			
申請科目年度	2013 年度			
過去科目年度	あり (2001～2012 年度) / なし			
担当教員 (複数の場合は代表者)	担当形式	専任/非常勤	資格	氏名
	単独 ・複数	教授 ・准教授・専任講師・助教・非常勤講師	専門地域調査士 /地域調査士	(ふりがな) 〇〇 〇〇 ----- 〇〇 〇〇 印
担当教員 (担当教員全員の氏名を記入)				
研究科長・専攻長等 (科目内容について責任を負える者)	担当形式	専任/非常勤	資格	氏名
	単独 ・複数	教授 ・准教授・専任講師	専門地域調査士 /地域調査士	(ふりがな) 〇〇 〇〇 ----- 〇〇 〇〇 印

(申請書 1)

授業内容説明書の記入にあたって

次項の説明文を記入するにあたっては、授業内容の概要にとどまらず、授業内容と以下の①および②とが合致しているかという観点で具体的にご記入ください。また、授業のシラバスだけでは授業内容の説明が不足する場合、この説明書に具体的な授業内容を詳細に記入してください。

①地域調査士認定規程第2条第3項によれば、「**専門地域調査士**」とは、地域調査に関して特に高度な知識及び実務能力を有するものであって公益社団法人日本地理学会が地域調査士認定規程に基づいて認定した者をいいます。

②地域調査士認定規程第2条によれば、「**地域調査**」とは、地域の特性の科学的な調査、分析、究明、解説、広報等を行う業務（報告書の作成その他これらの業務に付帯する業務を含む。）をいいます。また、地域調査士認定規程細則第1条には地域調査において留意する事項として以下の点があげられています。こうした点を授業内容と照らし合わせ、いかに合致するかという観点でご記入ください。その他、資格専門委員会のホームページには、地域調査士に関する規程類が掲載されていますので、規程類をご理解の上、説明書にご記入ください。

地域調査士認定規程細則 第1条

- (1) 調査は、常に科学的な意図と手続きをもって企画・実施すること。
- (2) 調査を実施する国・地域の法令、慣習を順守すること。
- (3) 調査の趣旨を十分に説明し、関係者の理解を得た上で実施すること。
- (4) 個人情報保護に努めるとともに、人権・プライバシーを最大限尊重すること。
- (5) 地域住民の生活や関係機関の業務をむやみに妨害しないこと。
- (6) 誤解を受ける言動をとることのないよう努めること。
- (7) 学会などの組織としての見解と個人の見解とを峻別すること。

授業内容説明書（前項の授業内容説明書の記入にあたってをよく読んで記入してください）

1 授業のねらいと到達目標

この授業では、地域調査における地理空間情報の利活用に必要な高度な知識と技術を学ぶ。また、理論を学ぶだけでなく地域調査において正確で客観的なデータの収集と分析能力を養うことも授業のねらいとしている。この授業を受講した学生は、地域調査とその結果を基に、高度な学術論文の執筆が可能になるレベルに到達できると思われるようなレベルに到達することを目標の一つとする。そのために、調査の企画や立案、実施という一連の工程を実行できる高度な能力を養うこともめざしている。

これらを実現するため、講義の他にソフトウェアを駆使した地域分析を行い、地域調査に応用できる能力を身につける。さらには、安全管理能力を身につけるためのフィールド実習をおこなう。

2 授業内容（具体的な授業回数とともに授業内容を書いてください）

回	授業内容	回	授業内容
1	野外調査と安全管理	16	地形図、空中写真、衛星画像による経時変化の抽出（1）
2	地域を解析するための自然環境系データと社会環境系データ	17	地形図、空中写真、衛星画像による経時変化の抽出（2）
3	利用できる GIS データ 1 地図データの変換	18	地形図、空中写真、衛星画像による経時変化の抽出（ミニ巡検）
4	利用できる GIS データ 2 属性データの入手と変換	19	GIS, RS のグランドトゥールズ（1）
5	自治体における GIS の利活用 世田谷区を例に	20	GIS, RS のグランドトゥールズ（2）
6	GIS による自然環境の解析（1）	21	分光反射測定 理論
7	GIS による自然環境の解析（2）	22	分光反射測定 実習（1、植物、土壌、人工構造物）
8	GIS による社会環境の解析（1）	23	分光反射測定 実習（2、野外での測定（市街地と緑地）
9	GIS による社会環境の解析（2）	24	分光測定結果の RS データへの適用
10	既存の主題図を GIS で使う 土地条件図	25	UAV による高解像度空中写真の取得方法
11	土地条件図を使ったフィールドワーク（ミニ巡検）	26	UAV の操作、空撮実習（1）撮影プログラムの作成
12	フィールドワークと GIS データ解析の連携（1）	27	UAV の操作、空撮実習（2）可視・近赤外写真と動画の撮影方法
13	フィールドワークと GIS データ解析の連携（2）	28	高解像空中写真の処理（オルソ化、モザイク）
14	フィールドワークと RS データ解析の連携（1）	29	近赤外写真による都市環境の解析
15	フィールドワークと RS データ解析の連携（2）	30	まとめ

3 この科目の授業のねらいおよび授業内容が認定に適合する理由を書いてください。

この授業は、以下の理由によりフィールドワークに基づく地域調査実習に関する科目の目的に十分適合すると考えられる。

- 1) この授業は、自然・人文地理の分野の地域調査を実践できる高度な能力の育成を目指している。
- 2) この授業の単位取得者は、地域を総観する高度な能力を講義と実習によって修得できると思われる。
- 3) この授業では、自然科学・人文科学のデータを扱って実習をおこなうので「人文と自然の融合としての総合学としての地理学」という視点から地域を扱う高度な能力を修得できると思われる。

4 授業に使用する教材

担当者作成の資料を使用する。

5 成績評価の方法（到達目標の確認方法）

レポート、発表、討論の内容によって評価する。

6 その他、上記以外に特に適合する理由があれば書いてください。

備考（記入に際し、スペースが不足する場合は枠を拡張または複数枚でもかまいません。）